

部会名	開催日	開催事業名	開催場所	概要	参加実績者数
(支援・情報部会)	1月29日(火)	(HPチーム) まちづくり協議会ホームページの開設		<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ開設 「情報収集・発信の仕組み作り」のため、市のホームページとは別にあらかわ地区まちづくり協議会専用のホームページを開設。 ※ページのコンテンツは全て部会員が企画。(トップページの作成は専門業者に委託) ホームページコンテンツ 協議会の仕組みや部会の活動内容の紹介、あらかわ地区の紹介、伝統芸能の紹介(ユーチューブ動画にリンク)、逸品(特産品)の紹介、フォトギャラリー(写真投稿を募集)で地域を紹介、行事カレンダー、事業告知用「お知らせブログ」、部会員がまちの話題や日々のできごとを気楽に発信する「あらかわっこブログ」、(観光案内は後日整備予定) ※今後はホームページをベースにフェイスブックやツイッターを開設し、事業の周知等様々な場面での活用を模索する。 	
	8月 11月 3月	(広報チーム) まちづくり協議会広報誌の発行		<ul style="list-style-type: none"> ●あらかわ地区まちづくり広報誌「あらかわ」を発行(カラー印刷で年3回発行) 広報誌を通してまちづくり協議会の活動をひろく地域のみなさんにはじめると伴に、地域の宝やまちづくり活動を紹介。 	
	10月28日(日)	まちづくり協議会PR活動	保内小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●保内小学校文化祭会場の荒川地区大好きコーナーに、まちづくり協議会PRコーナーを設置 ※出展に合わせ小学生を対象に「こんなまちに住んでみたい」と題し、こども夢調査を実施。 	夢調査129人
	9月～	(ネットワークチーム) 既存まちづくり活動団体のネットワーク構築		<ul style="list-style-type: none"> ●ネットワークの構築 既存まちづくり活動団体のネットワークを構築し、まちづくりに関わる活動団体が協力・連携できる情報交流や活動交流の機会を創出するため、活動団体等調査を実施。 	
(全体)	11月18日(日)	協議会役員先進地視察研修	小千谷市 NPO法人 おぢや元氣プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ●あらかわ地区まちづくりの将来像の実現に向けて先進事例を学び、今後の施策展開に生かすことを目的として先進地視察研修を実施。 まちづくり協議会発足初年度でもあるので、視察先のまちづくりを考える様々な視点や方法を実際に見て・感じ・体験することにより、まちが抱える課題やその解決策についての糸口を見つけるだけではなく、先頭に立ってまちづくりを頑張ってきたリーダーたちの話を聞き、その情熱と魅力について学ぶことが最も重要なポイントと位置付け、NPO法人おぢや元氣プロジェクトを視察した。 この団体は、中越大震災の翌年、2005年2月に発足し、「夢と感動 勇気と希望を!」「人と地域に垣根をつくらず」を活動理念として、支援活動、まちづくり活動、福祉活動、資源環境保護活動など、小千谷を拠点に様々な活動を行っている。 	24人
	1月26日(土) 3月16日(土)	まちづくり活動啓発事業(実験事業) あらかわレコード鑑賞会	荒川支所 3F旧議場	<ul style="list-style-type: none"> ●家に眠っているレコードを持ち寄り、レコード鑑賞会を実施 事業目的 <ul style="list-style-type: none"> ①まちづくりについて理解を深めてもらう。(まちづくり活動啓発事業) レコード鑑賞と言う同じ趣味を通じて皆が集い、これまで接点のなかった人達が繋がりをもてたり、地域の中で賑わいを生み出してくれることで、立派なまちづくり活動になるということを知って貰う。 ②地域(人)との繋がりを広めもらう。(地域デビューの機会創出) 普段は一人で楽しんでいる趣味であっても、大勢で一緒に楽しむことで、集まった人同士が繋がり、そういった活動の中から地域やまちづくりに関わるきっかけをしてもらう。 ③地域の宝(人、物)の発掘 埋れているレコードやこの分野の精通者も地域の宝であり、それらを発掘し今後のまちづくり活動の可能性を探るための実験事業として開催。 <p>※参加者からは今後も定期的に開催してほしい旨の希望が多数あり、協議会では定期開催するにあたり参加者からなる「レコード鑑賞サークル」等のグループ化を促し、自主開催してもらうような方向付けを行く予定。</p> <p>尚、協議会では、今後も人と人との繋がりを生み出すこのような事業を企画提供し、そこで生まれた小さなグループが、少しずつ仲間を増やし、やがてはまちづくり活動を担う団体に発展していく過程を支援していく。</p>	100人